

ペンを持たない学び旅 ～「私」が見つかる新故郷～

明治大学情報コミュニケーション学部
島田ゼミ 小林・多々良・生和・古田・南嶋

私たちが注目した『広野町』



広野（ひろの）町

平成23年9月30日

緊急時避難準備区域の解除

☞他市町と比べて解除が早い！

令和3年1月に町民帰還率が9割を達成

広野町の方々からお伺いした想い

👤 長期的に関わり続けてくれる人を増やしたい

👤 広野町が先陣を切って浜通りを盛り上げたい

しかし...

「復興が早く進んだからこそ

足を止めてもらえない」という難しさも



◆子どもの町

子ども園から小学校、中間一貫校が一か所に集う「教育の丘」
震災前双葉郡に5校あった高校を統合し、中高一貫校となった
「ふたば未来学園」

◆日本一美しい日の出の町

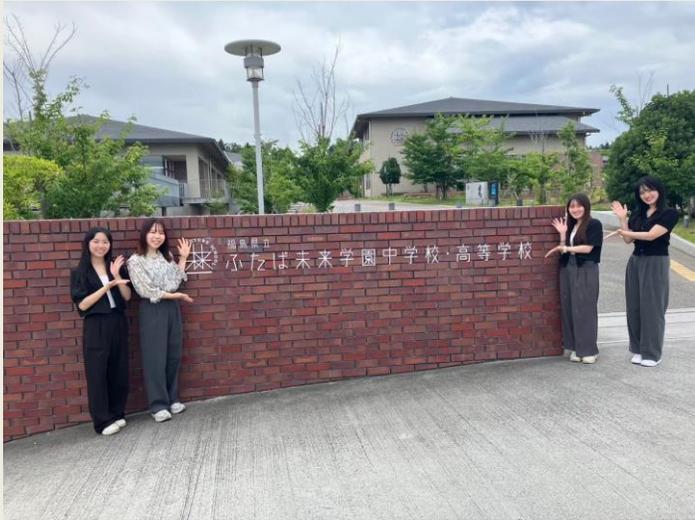
文化：名所「奥州日之出の松」や童謡「とんぼのめがね」
データ：ウェザーマップの調査によると
「エアロゾルの少なさ」（空気のきれいさ）2位
「快晴日数」1位

◆坂が多い地形

◆広野町のミカンの丘で栽培された
みかんを使ったみかんサイダー



活動を通して感じたこと



ふくしま学（楽）会へ参加

『福島から世界の未来を拓く人材育成を考える。世代を超えた「学びの場」の創出、「超える学校」から「みんなの学校へ』』というテーマのもと、浜通り地域の高校生などとの対話



1度目のフィールドワーク(7/2・3)

町歩きを中心に町の方と触れ合う

広野町の人と特産品について知り、
広野町の人々の温かさを感じる



2度目のフィールドワーク(8/28~30)

町役場・町民の方へのインタビューを行う

広野町のこれまでと現在を知り、
町の方々が考える課題と魅力について
考えを深める

これらの活動を通して、

広野町は「**学び**」に力を入れているため、その学びを広野町で発揮する人材を増やすことが出来れば、より活気ある町になるのではないかと考えた

と考えた

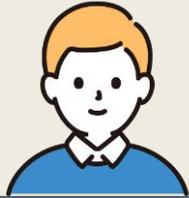
課題

①シビックプライドが育まれにくい状況

広野中学校、中学生の半分は町外から来た子ども！
(JFAアカデミー福島所属)

JFAアカデミー福島とは？

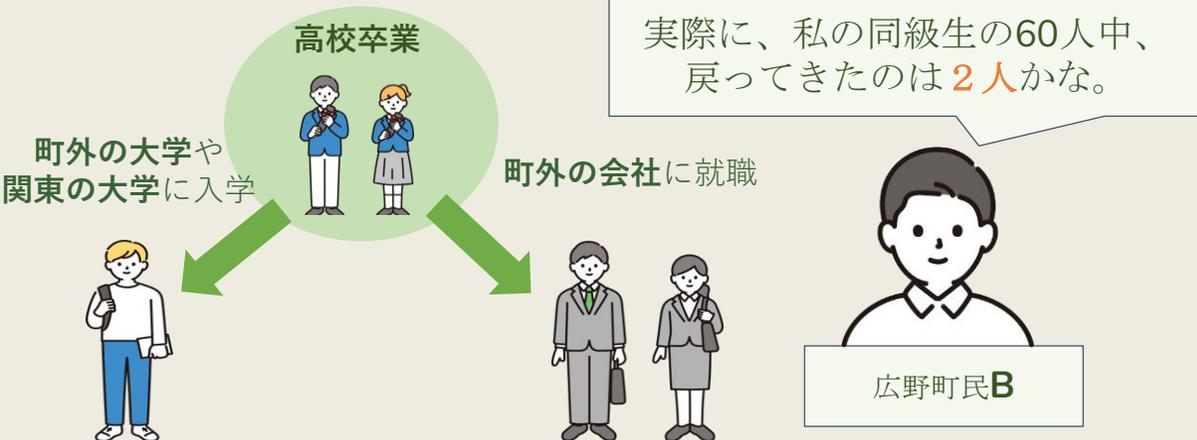
サッカーのトップアスリートを目指す生徒が全国から集まる
日本サッカー協会直轄事業のアカデミー



広野町民A

広野町には資源はあるのに
「町の子たちが町を知らない」
という課題がある

②町に戻ってくる人が少ない



この二つの課題は繋がっている!!

文献調査
により発見!

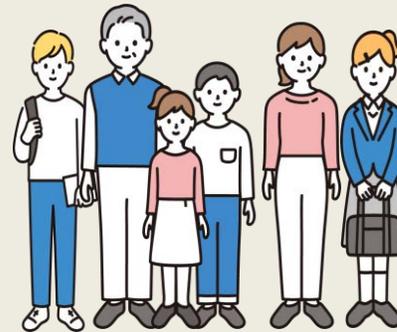
安藤(2022)は
「個人的な嗜好から地域を肯定的に評価することが
Uターンの意識を左右する。」のように議論している。

それぞれが自身にとっての「**広野町の魅力**」を見つけると
シビックプライドが育まれ、町に戻って来なくなる!

魅力の再発見には**多様な視点が必要!**
それは様々な世代、異なるバックグラウンドを持つ人との交流に
よって得られる



私たちは多世代間の交流に着目!



様々な世代との交流



広野の魅力再発見!!

施策・目的

ターゲット： 首都圏の大学生 & 地元の中中学生

町に来た観光客の「私」

広野町民である「私」



ペンを持たない学び旅 ～「私」が見つける新故郷～

プランへの想い

自然に囲まれている広野町だからこそ、
学校ではできない「**実体験を通した学び**」を深めてほしい

広野町に触れ、『第二の故郷』
を見つけたという想いが浮かぶ

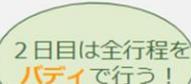
故郷を新鮮に楽しみ、いつもと同じはずの
『故郷』が全く違って見える

プランの軸 学び × 観光

タイムテーブル (1泊2日) 1日目

- 1 広野米の食べ比べ  **バディ!**
- 2 町の人おすすめの五社山ハイキング  **バディ!**
- 3 夜ごはん (福島のお酒・料理を堪能) 
- 4 星観察 

タイムテーブル 2日目

- 1 「日本一」の日の出を見ながら朝ごはん
- 2 流しそうめんの準備開始  2日目は全行程を **バディ**で行う!
- 3 “傾斜を利用した”流しそうめん 
- 4 みかんサイダーオリジナルラベルづくり



「私」が見つける新故郷

ペンを持たない 学び旅

日本一の出が綺麗に見える

自然を堪能できる五社山ハイキング

満点の星空が楽しめる

プラン概要
広野中学校の生徒とバディを組んで、広野町の食、自然、人を満喫できる2日間。終わる頃には広野町を第2の故郷のように感じるはず。普段の旅行では体験出来ない、学びの旅に出ませんか？

参加費用
20000円
・村内から広野町へのバス(往復)
・宿泊費
・食費
・プログラム費用が含まれています。

広野町とは
HIRO'S
・特産ひたちで東京から2時間30分
・1年を通して温暖な気候
・特産品はひらの米、みかん、バナナ「餅屋」。

ご予約はこちら
HIRO'S (ひーろーず)
123-456-7890
www.hironomachi_hiros.com

施策・目的②

イベント終了時 広野町特産品“みかんサイダー”の
オリジナルラベルを作成

サイダーの裏面に
旅でのお気に入り写真をシールにして貼る。



自分だけの「オリジナルみかんサイダー」完成！



カタチに残ることで広野町を覚えていてもらう。



”オリジナルみかんサイダー”
イメージ写真

HIRO'S

イベント参加者、地元の中学生在が

広野町に関わり続ける仕組み

自らの経験を通じた学びをインプットで終わらせず、
外に発信することでより深く広野町について考えることを目的とした団体。
町の**魅力を感じた人が遠くからでも関わり続けられる仕組み**

活動例：インスタグラムでの発信、広野町のイベント企画、感じたことの共有



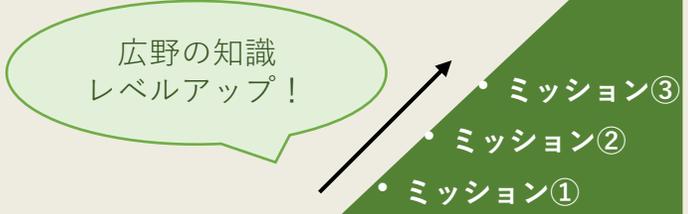
プランの特徴

①HIRONOミッション

広野町について学び知ることで達成出来るミッション

クリアするごとに広野町について詳しくなる！

例：「広野産の有機米はどっちだ！」
「五社山でキノコを一番多く見つけられるのはどのバディだ！」



②バディ

広野町の中学生と大学生がバディを組む

バディ結成！



広野町にいない年代との**交流機会の創出**

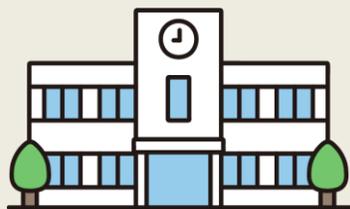
& 中学生は町外の人々の反応を間近で見ることができる



日常化している広野の良さを改めて認識する

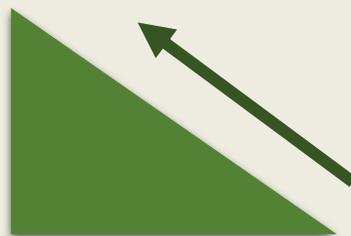
独自性

① 「学び」に着目
学び×観光



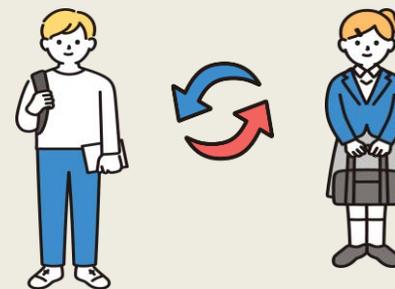
学びに力を入れている広野町だからこそ
「学び」を観光にするという視点

② 傾斜を利用したアクティビティ



生活する上でネガティブに
捉えられがちな坂で楽しむことで
「坂」の存在をプラスに転換！

③ 町外の学生との長期的な交流



HIRO'Sによって、離れていても
交流が続く仕組みづくり

実行計画

町役場への
提案プレゼン

2025年4月

実現へ向けた
プランの改善

2025年5～10月

ご協力いただく
学校、地域、
役場の方との
連携・調整

2025年10～4月

参加者募集
SNS・ポスターを
用いたPR活動

2026年6～7月

プラン実行

2026年8月

効果

中学生

- ◆ 地元の魅力を再認識する
- ◆ シビックプライドの高まり

3つの視点からのメリット

町

- ◆ 関係人口の増加
- ◆ 「また帰ってきたい町」に

大学生

- ◆ 豊かな自然と触れ合う体験
- ◆ 新しい場所や人との出会いの機会

このプランは「長期間単位」の効果もある！

広野町にいない
大学生が広野町に！

子どもたちが
町の良さを再認識

大人になった時に
町に戻ってきたくなる！

帰還した町民や移住者が
広野町で活躍！

関係人口
創出

シビックプライド
育成

Uターン人口の増加

広野町発展！



目標

ペンを持たない学び旅を通して私たちが目指す広野町の未来は
町に住んでいない人、町を出た人が
いつでも戻ってきたいと思う『みんなの故郷』になること